

私のおすすめ

わんこそばに挑戦してみました。

鈴木 琢

横浜総合病院（横浜市青葉区）

既にご存知のお店かもしれませんが、自分としては印象的なお店でしたのでご紹介いたします。わんこそばそのものは皆さんご存知かと思いますが、おそらく岩手県の方へ行かないと体験できないというイメージが強いかと思いますが（自分自身もそうでした）。今回、職場の方から教えてもらい、関東唯一のわんこそばを体験できるお店に行きました。お店の外観は普通のお蕎麦屋さんですが、店内に入ると既にわんこそばを開始されている方達は何組かいらっしゃいました。ちなみに、わんこそばを注文する場合には、予め予約をお願いします。

今回恥ずかしながら初めての経験でしたが、たかが蕎麦と思い我々も開始しました。予めそばつゆの入ったお椀が準備され、側にはそばの束を準備しているお店の方が待機しています。天ぷらなどの数種類のおかずと薬味がついています。1回の量は、15杯でもりそば1枚に相当するようです。

序盤は順調に進行し、“どんどん”“じゃんじゃん”というお店の方の掛け声でテンポよくかつ次々に休みなくおそばを頂かなくてはいけない為、食事中は写真を撮るタイミングを逃してしまいました。40～50杯あたりまでは順調でしたが、70～80杯頃になると少し苦しくなってきました。基本的に一休みするという選択肢は無く、継続するかそこで中止するかしかありません。その後は少しずつペースを落としながらも何とか継続し、結局少し余力を残して111杯で終わりました（写真のおはじきで食べた数をカウント）。理由は付け合わせの天ぷらを食べる余裕が途中なかったため、それを最後に味わいたかったからです。一緒にいた女性陣も概ね100杯は超えていたようです。お店の過去の最高記録は、男性が600杯強、女性が500杯弱でした。ちなみに男性は100杯以上、女性は80杯以上食べるとお店から粗品を頂くことができます。

大食い自慢の方からわんこそばって何？という方まで楽しめると思います。ただくれぐれも体調を予め整えてから行くことをお勧めします。わんこそばの価格は大人2,850円、小学生2,500円、幼児1,425円です。その他色々とメニューがあるようです。

【店舗情報】 わんこそば たち花

住 所：神奈川県横浜市神奈川区白楽513

アクセス：東急東横線東白楽駅徒歩1分、又はJR東神奈川駅から徒歩10分

T E L：045 - 431 - 9445

営業時間：午前11：30～午後9：00（1/1、1/2休業）

予 約：可

※完全禁煙



Movie IV

高橋泰英

高橋皮フ科クリニック（横浜市中区）

「私のお勧め2019年」、昨年上映された映画は傑作が多かったので、自信を持ってお勧めできます。

『否定と肯定』

ホロコーストがなかったと主張する著書を批判した歴史学者が、著者から名誉棄損で訴えられる。英国では訴えられた側に立証責任があるので、ホロコーストがあったことを証明しなければならない。コツコツと証拠を積み上げていく裁判劇に、イライラしながらも感情移入。第二次大戦直後ではなく、すでに既定の歴史的事実となっていたはずの1994年の話というのが驚き。

『はじめてのおもてなし』

中東からの難民を受け入れたドイツ人一家の物語。とは言え、難民問題だけが特殊なわけではなく、他の色々な問題を抱えこんでいる家族の中の一人に過ぎないという位置付け。皆それぞれの立場で悩んでいるというわけです。コメディタッチで政治色を薄めてあるので、製作段階で強硬に反発していた難民反対派の人々からも受け入れられたとか。

『スリー・ビルボード』

娘のレイプ殺人犯人を逮捕できない警察に業を煮やした母親が、街道沿いに怒りの広告を張りだす。登場人物全員が悩みを抱え怒っている。それぞれの気持ちに必ずしも共感できないが、人間ってどうしようもないなと思いつつ可愛いなと思ってしまう。署長のあの行動は、ある意味理想かも知れない。最後は不思議な後味、悪くないです。帰途、いい映画を観たなあとしわじわ満足感が。端役も含め俳優の演技が素晴らしい。署長役のウディ・ハレルソンは最近とてもいい味を出している。『LBJ ケネディの意志を継いだ男』でのリンドン・ジョンソン役も素晴らしかった。

『15時17分、パリ行き』

列車テロを阻止した実話、しかも犯人以外の事件当事者が自分の役を演じるというクリント・イーストウッド監督の離れ業。日常と非日常、過去と現在の描き分けが見事。

『リメンバー・ミー』

名作『トイ・ストーリー3』のピクサー制作アニメ。年に一度、死者が家族に会いに来る日に、死者の国に迷い込んだ少年の冒険物語。その世界の煌びやかさに圧倒され、音楽と色彩に満ちた世界に遊んでいるうちに、家族との絆や先祖を祀るという意味が心に染み渡る。アニメと思って侮ってはいけない。これが気に入ったら『トイ・ストーリー』シリーズも是非見てください。特に3は私のベスト100候補作。ただし家族と一緒に避けた方がいいかも。感涙必須。

『ウィンストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男』

第二次大戦勃発当時、英国首相になったチャーチルの戦争続行か和平交渉か（事実上の降伏）で悩む苦渋の日々を描く。悩んだ末に地下鉄内で市民の意見を聞く場面では、人間チャーチルの弱い面、そしてだからこそ強い決意に接して思わず落涙しました。

『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』

ベトナム戦争を分析・記録した機密文書を暴露しようとする新聞社と差し止めを要求する政府との攻防。サスペンスだが、夫の急死により新聞社主となった主婦の成長と決断の物語ともいえる。輪転機が名脇役。そしてスティーブン・スピルバーグ監督の演出のうまさに唸った。裁判所でのごく端役の女性たちの扱い方に注目

すると、上手さが分かると思う。

『万引き家族』

是枝裕和監督による相変わらずの家族映画。うまい役者に、いつもながらの自然で面白い台詞、つまらないわけがない。カンヌ国際映画祭で最高賞受賞。

『勝手にふるえてろ』

自意識過剰女子の暴走恋愛模様、松岡茉優の魅力満開。癖が強すぎて万人向けではないけれど、松岡の大ファンである私は大満足でした。フレディ・マーキュリー絡みの小ネタギャグがあるので、クイーンの「We Will Rock You」を知らない人は『ボヘミアン・ラブソディ』から先に観て。

『ボルグ／マッケンロー 氷の男と炎の男』

後半のウィンブルドン決勝戦はまれにみる緊迫感。有名なこの対戦を知っている人も楽しめると思うが、知らなかった私はライブ感覚で興奮出来て得した気分。世間一般にボルグ＝氷、マッケンロー＝炎という評価だが、ボルグも昔は悪童だったのをとてつもない精神力で抑制していたというのが面白い。最後の空港のシーンで涙腺が……。

『カメラを止めるな!』

製作費300万円の低予算映画。しょぼいゾンビ映画と思いきや、あっと驚く仕掛けが。というよりも映画製作の裏が分かるのが興味深い。初めにつまらないと思っても「ビデオをとめるな!」。

『ボヘミアン・ラブソディ』

昨年日本での興行収入ダントツ1番の映画。すでに観た人も多いでしょう。クイーンの曲が嫌いな人以外(嫌いな人も?)必見です。今回色々な映画で涙腺緩みっぱなしだが、これも好きな曲がかかる度に落涙。でも映画で感動したのか、曲で感動したのかは今も疑問。

『5パーセントの奇跡 嘘から始まる素敵な人生』

視力の95%を失った青年が、それを隠しながら5つ星ホテルの正社員を目指す。残り5%の視力と機転と凄腕に加え、研修仲間の支援もあって難関をクリアしていく。友情や恋愛もあって、誰が見ても楽しめ感動すると思う。実話と聞いてさらに驚き。

『アイ、トーニャ 史上最大のスキャンダル』

一時世界中を驚かせた「ナンシー・ケリガン襲撃事件」、覚えていますか? その事件に関わったため、フィギュアスケート選手としての生命を絶たれたトーニャ・ハーディングの半生を描いた映画。実母の鬼っぷりと夫の駄目っぷりが凄まじい。人生は自分の努力だけではどうにもならない、周囲の人間に左右されるトーニャが痛ましい。主演のマーゴット・ロビーはドラマでの熱演もさることながら、実際にスケートティングをしているという。全く俳優という仕事の凄さに唸る。

『キングスマン ゴールデン・サークル』

奇天烈スパイアクションの第2弾。おバカぶりがさらにエスカレート。こういうのも嫌いじゃないです。

『ヒトラーを欺いた黄色い星』

ベルリンで第2次世界大戦を生き抜いたユダヤ人たちのインタビューを交えた、半ドキュメンタリー映画。

『判決、ふたつの希望』

レバノン人とパレスチナ難民の口論から裁判、さらに国中を巻き込む政治問題にまで発展する騒動に。

『バッド・ジーニアス 危険な天才たち』

珍しいタイ映画、天才高校生が世界規模のカンニングに挑む。

『ミックス。』

落ちぶれた男女が卓球で再生を目指す、ベタな展開もガッキー・瑛太の魅力でカバー。共演者も豪華。

『時間回廊の殺人』

韓国得意のファンタジー・ホラー・サスペンス。何だこりゃと思ったが、意外や感動が待っていた。